



健全な青少年育成のため

作文入選作品発表

都留ライオンズクラブ主催

健全なる青少年の育成を目的として、都留ライオンズクラブでは、教育委員会の後援で、最近大きな社会問題となっております。中学生の非行問題を取り上げ、中学生が何を考え何を望んでいるのか等を知るために、市内の三中学校の生徒より作文募集を行いました。その中から優秀作品三点を紹介いたします。なお、都留ライオンズクラブでは今後一人でも多くの方にこの作文を読んでいただくために、文集を作成し、関係機関・関係団体等に配布する予定であります。

今までの生活を

振り返って

東桂中 前田 文子

今、私は思う。なぜ、あんなことをしたのだろう、と。別にたいしたことではない。しかし、今、思いおこせば、なんとなく馬鹿らしいことのように思えてくる。

去年の私は、先生方から見て、「荒れていた」のだと思う。つっぱり、と言える程のことではないが、多少ひいかなこと書いてある雑誌を学校に持ってきたのがばれて、お説教されたり、担任の先生に反抗したり、髪を巻いたり、ネクタイや上着の丈を短くしたり、授業中など、ほとんど遊んでばかりいた。おかげで、勉強など全くわからなくなり、成績もみるみるうちに落ちていった。外見ばかりでなく、性格も荒れていた。先輩に、

「部活中の態度が悪い」ということで、何度も呼び出されたこともあった。三年になっても、わざわざ違反のくつを買ったりした。

しかし、今は違う。高校入試があるから内申書を良くしようとして直したわけではない。ただ、なんとなく「つっぱりぶる」ということが馬鹿ばかしく感じられてきたのである。つっぱりしたりして、なんの得にもなりはしない。やって何になるというのだろう。

今、私は高校サッカーに夢中になっている。一つのボールだけを追い続け、必死になってプレイする選手達には、つっぱることなどまるで無縁のことのようにだ。つっぱったりする人は、つっぱることの他に夢中になることがないからつっぱるのではないだろうか。

サッカーファンとなった今の私には、去年のことが悪夢

のように思えてくる。先生や親からも「だいぶ落ちついてきた」と言われ、自分自身でもそう思っている。しかし、私のように、立ち直れない人が多勢いるのが現状だ。そういう人達も、早く、夢中になれるものを見つけ、つっぱることが馬鹿らしく感じられるようになってくれればいいなと思う。

今、求めること

都留二中 細川 律子

『校内暴力』『家庭内暴力』『タバコ』『シンナー』など、心の病気にかかっている者が行う事だ。あるテレビ番組で聞いた言葉である。

私は、この言葉を聞いて、あまりピンとこなかった。本当に心の病気だけが「不良」という道へ誘いこんでいるのだろうか。両親や先生、周り

の者達が、「不良」という言葉を作りあげているのではないのだろうか。

親や先生は、何かまちがった行動をとればすぐ「叱る」という事しか考えていない。ひどい親や先生になると、叱りさえしてくれない。親や先生は、子供のためだと思ってるにちがいないと思うが、私達子供は、そんな事までのみこめないし、ついていけない。つまり、私達が求めているものは、愛情や、やさしさなどではなく、言葉では言い表せない、親と子、先生と生徒の信頼関係なのだ。このことを、もう少し考えてほしい。私達も、親や先生の立場を考えて行動しなければならぬ。周りの者も、ちょっとのこと、で、「あの子は不良」だとか、「つっぱり」だとか、その子の本当の姿を知らないくせに言わないでほしい。

私の考えは、心の病気にかかっている人のかたをもつような考え方に思えるだろうが、決してそういうことではない。今、私達が求めている、本当の気持ちなのだ。そのことをよく理解してもらいたい。そして、大人のみなさんに、その子供の事をもっと、知ってもらいたい。

